

## フェリーの造船に関して / 津田隆

■2番 津田隆議員 フェリーいへやⅢ、平成27年から定期便1時間20分を続けているにあたり、想像以上に費用がかかっているが、立て直せる範囲ですか。

■議長（金城信光） 答弁、上江洲清彦観光交通課長。

■上江洲清彦観光交通課長 津田隆議員の質問にお答えします。フェリーいへやⅢは就航から本年度で10年を経過しておりますが、村の監査員からも経営健全化計画の令和5年度の実施状況の確認としてもコメントがあるんですけども、費用面に関しては大幅な改善がなされているという状況です。以上です。

■議長（金城信光） 答弁終わりました。津田隆議員。

■2番 津田隆議員 観光立村を目指している伊平屋でもありますが、このフェリーは現在村民の生活に合わせた規模であると考え、工業や産業また発展にはつながりません。村民の利便性に加え工業や産業の発展を目指すならば、やっぱり1200トン位のフェリーが必要であり、その規模の船なら伊平屋村観光立村を目指せることと考えます。

しかし、また村だけの2便運航では滞在する時間等が生まれません。

観光を増やすのに何が必要か。伊江島は1000トン。1000トン近く、99で止めているから、伊是名も99、同じように車が40台。だけど観光があんまり増えてない。ということは便数じゃないかなど。伊江島が一日4便。連休とかになると8便。またそれに加えてイベント時や、足りない時には増やしていると。そういうのから見たら、最低4便いれると時間帯も日帰り、朝早くとか便数をいろいろ考えて、伊平屋だけでは無理でしたらもちろん伊是名と、島と島を結んで回転させる航海をすれば4便なったり、無理すれば6便、島と島と結んでいって便数を増やす。そうするとまた船の設計も変わってくるわけですよ、観光に合わせた設計とか。次の建造についても、今から考えていかないと間に合わないんじゃないかと思ってます。そのへんを聞きたいと思います。

■議長（金城信光） 答弁、上江洲清彦観光交通課長。

■上江洲清彦観光交通課長 津田隆議員の質問にお答えします。何点かあったんですけど、まずフェリーの増便に関しましては「総合事務局とも調整しながら。」という回答になります。経営健全化計画の中で便数は適正か、この人数に対して入域観光客数、利用する方ですね、村民も含めてなんですけれども、この便数で適正なのか、減便する必要はないのかっていうことは毎年度経営改善の計画の振り返りの中で上がってきている状況ですので、便数をいきなり増やすということはなかなか現実的に難しい。あとは時間的な問題等もあります。例えば伊是名村のフェリーをお借りしてイベントの時は利用するっていうのは、過去にはムーンライトマラソン等々で活用した経緯もあります。それらを踏まえて、経費の面とかさまざまな問題も勘案しながらやっていかないといけない案件かと考えております。

また、入域観光客数の直接的影響が出る部分と並行して、観光客の受け皿がそこにはあるのかとかいう直接的な起因以外の間接的な起因も考えないといけません。通常運航が330名、ムーンライトの時には増便して約460名程度乗れるような状況にするんですけども、その場合、じゃあ受け入れする宿泊施設、飲食を確実に提供することが可能なのかとか、さまざまな主たる要因以外にも、それ以外に関連す

る要因等々も検討しながら、便数の増加やフェリーの大きさ等々も今後検討していく必要があるかと考えます。

現在村としては造船検討委員会の立ち上げを検討しております。本当に建造が必要であれば、公団で建造検討委員会の設置も踏まえながら検討していきたいと考えております。以上です。

■議長（金城信光） 答弁終わりました。津田議員。

■2番 津田隆議員 そうですね、僕も総合事務局に電話をかけて今のことをいろいろ聞いて、規制はあるのかという問いに「規制はない。」との回答でした。さっき言った島と島を結ぶっていうのは、チャーターするとかじゃなくて、伊平屋・伊是名・運天・伊平屋のコースをとったり、そういったのも含めて伊是名とも協議して、「じゃあ船は1000トンあるのに、なんで観光が増えないのかな」と考えてるはずですから協議してほしい。そのコースになればお互いに便数で調整したり、そうすることで、伊平屋から伊是名に人間の流れも変わってくる。

また、ジャングリアという名護で大きなテーマパークのオープンも迎えることだし、それも含めたりいろいろ考えてお客をどうやったら誘致できるかと、そこらへんをもう少し真剣に考えてほしい。やってできないことはないと思っています。

今から何十年か前なんだけど、たまたま伊江島の船長と船一緒だったんで、接見した時「伊江島は近くて困る。」と、そういう話が出て今のかたちになったと思うんですけども。じゃあ伊平屋は遠いからどうやって近くに見せるかと、近いように見せるかと、努力は絶対必要だと思います。是非一生懸命これから先考えてやっていきたいと思っています。そこで村長に一言聞きたいんですけど、村長、どうですか。

■議長（金城信光） 答弁、名嘉律夫村長。

■名嘉律夫村長 津田議員の質問にお答えします。まさにそのとおりだとは思いますが。私も村長になってから前伊是名の前田村長に対してもそうでした。その前の村長にも、フェリーの統合、ぜひ両村で検討する必要あるんじゃないかっていう話をした経緯があります。

ただ、伊是名村がなかなか建造には乗り気がないと、おそらく船が一隻になるとどこを母港にするかっていうのが、一つの大きな問題点になってくると思うんですけどね。

そうであるならば、高速艇の導入も含めて今後検討する必要があるだろうという事も一応話はしてるんですけど、なかなか話に乗ってこないというか、「こういう話は後でいいよ。」って、「今しなくてもいいよ。」って、そういう答えしか出てこない。できれば国の方針でもって船舶の一元化ができるのであれば、今、津田議員が質疑してるとおりになるのではないかと考えています。実は総合事務局でも「局長にそういうことは可能なのか。」と聞いたら、「それは両村で考えてください。」ということだったので、国としてはやりたいと思っています。でもやっぱり離島は離島なりの島々のいろんな事情があるということで、なかなかその問題には触れるということにはしなかったと。

もう一人、<sup>あらかきくにお</sup>新垣邦男国会議員が私に「名嘉村長、フェリーの一元化は我々が国会で取り上げてもいいかね。」ということで、「おおいに結構ですよ。」と話した経緯があります。また船の建造の計画についてもそうなんですけれども、昨今のいろんな

状況を見ていると、資材の高騰とかいろいろなリスクがあるんですけども、試算をしてみないとどのくらいの費用がかかるかまだ全然検討がつきません。1200トンというとちょっと大きいと思うんですね。大きさとしては我々が乗っているフェリーとたいして変わらないと思います。80m位だったらなんとかいけると思うんですけども。まあ1200は少し大きいのかなと思いますね。そういうことで、いずれにしても建造計画をこれから立てながら、「いつ頃船を入れ替えするか、ということも検討していかなきゃ」というところにきていますので、そのへんはまた議会の皆さんと建造委員会を立ち上げながら検討していくという事になると思います。

いずれにしても、津田議員がおっしゃられた問題についてはこれからは是非お互いが議論していく必要があると思っておりますので、是非、建造計画を早めに立ち上げてお互い議論していく。そして伊是名村とも今後の事について協議していく必要があるのかなと思っております。そのへんはまた今後の話になってきますので、お互い協力しながらやっていきたいと思っております。以上です。

■議長（金城信光） 答弁終わりました。津田隆議員。

■2番 津田隆議員 ありがとうございます。フェリーはどんなに物価が高かろうとなかろうと、必ずなければいけないものです。総合事務局でも、伊是名と両村でやれば一つにさせるんじゃないかなという問題もあったんで、一応電話ですけれども確認とったり、向こうもやっぱりある程度そういうふうにかけて、伊是名と伊平屋村で回ったらどうかという構想もあったみたいです。でも船の一元化というのは絶対ありえないと、これはなぜか言うたら、有事だったり緊急な時に村長命令で船が動くわけですから、村民をどうするのかっていうところ。

船の設計によって車が多く積めたり、船の大きさも変わってくるんで、要望に応じて造船所あたりに聞いてみるとそういうのも可能だと。いろいろ経費もかかっていることだし、これから先造らなければいけない物でもあるから、じっくり構えていろんな角度から伊平屋に見合った、観光に見合った船を造りたいなと思っておりますのでよろしくをお願いします。